令和4年度英語教育改善プラン推進事業 【大阪府】

☑ 児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価　☑ 学校種間連携　☑ 英語担当教師の指導力・英語力の向上（小学校担当教師の指導力向上）

当該地域における英語教育の課題

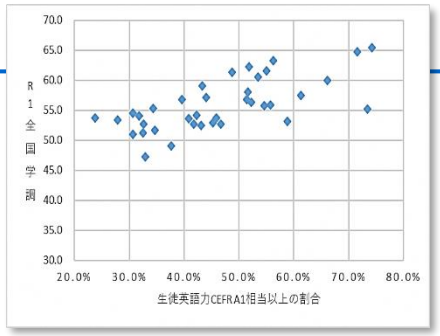
【①～③出典】大阪府データ R3英語教育実施状況調査より

①中学生・高校生の英語力について

国が求める英語力（高３：CEFR A2以上、中３：CEFR A1以上）を有する生徒の割合（%）

	中学3年生（政令市除く）			高校3年生（政令市除く）		
	H30	R1	R3	H30	R1	R3
目標値	50	50	50	50	50	50
実績値	45.3	46.9	47.4	40.4	43.7	48.2

表１より、中学校における一定の英語力（CEFR　A1以上）を有する生徒の割合と、全国学力調査の結果を比較すると、概ね、府全体において一定の英語力の見取りを行うことはできている。一方で、一定の英語力（CEFR　A1以上）を有する生徒を見取る際に、市町村で見取りに差が生じていることが明らかになっている。実際の生徒の英語力について、的確な見取りと適切な指導ができていないことが原因であると考えられる。



（表１）（中学校）英語教育実施状況調査及び全国学力学習状況調査の相関関係（ともに令和元年度）

※全生徒が外部検定試験を受験している４市町村を除く37市町村が対象

②パフォーマンステストの実施について（年間実施回数）

中学校（政令市除く）	スピーキング			ライティング		
	H30	R1	R3	H30	R1	R3
全学年計	10.4	11.5	13.8	10.4	10.4	13.1

高等学校（政令市除く）	スピーキング			ライティング		
	H30	R1	R3	H30	R1	R3
コミュニケーション英語Ⅰ	2.4	2.5	2.2	0.8	0.8	0.5
コミュニケーション英語Ⅱ	1.4	2.0	1.6	0.5	1.0	0.5
コミュニケーション英語Ⅲ	0.6	0.8	1.0	0.3	0.8	0.5
英語表現Ⅰ	1.3	1.3	1.0	1.3	1.2	0.7
英語表現Ⅱ	0.7	1.0	1.1	1.5	1.7	1.5

中学校においては、スピーキングテスト、ライティングテスト両方において増加傾向であるが、高等学校においては、科目によって増減がある。

中学校、高等学校とも、ライティングテストは、定期テストでの実施が主であるが、例えば単元テスト等、生徒が主体的に学び、定着を図る取組みにつながるきめ細やかなライティングの活用に課題がある。しかしながら、単に回数を増加させるだけでは、担当教員の負担が増大し、的確な学習状況を把握することが難しくなる。児童生徒の英語力向上に資する上では、パフォーマンステストの実施内容やその評価についての質的な改善が必要である。

③英語授業におけるＩＣＴ機器の活用について

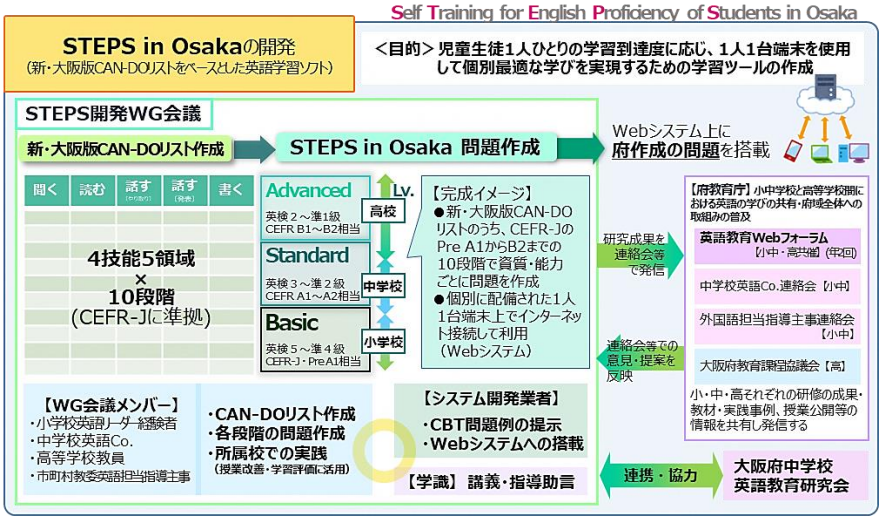
（政令市除く）（単位%）		生徒がICT機器を活用し、発表や話すことにおけるやり取りをする活動			生徒が発話・発音などを録音する・録画する活動		
		H30	R1	R3	H30	R1	R3
中	積極的に活用	10.1	16.4	54.9	5.2	12.2	29.0
	時々活用	26.9	30.3	40.6	24.1	27.9	40.9
高	積極的に活用	8.7	17.8	22.7	5.0	12.6	12.1
	時々活用	32.6	38.5	50.0	27.5	29.6	40.2

令和３年度においては、ＧＩＧＡスクール構想による１人１台端末の普及により、ＩＣＴを活用した活動が浸透しつつあるが、ＩＣＴをより効果的に活用するためのモデル（例　スピーキングテストにおいて録音機能を活用するなど）を提案し、活用を一層促進するとともに、活動や学習評価の質の向上につなげる必要がある。

また、児童生徒が授業内外において端末を活用し、自らの英語に関する学習到達度を把握でき、個別に、主体的に、いつでも学習に取り組めるシステムを開発する必要がある。

＜実施内容＞

◇「小中高で連続性のある個別最適な学びの実現に向けたシステムの開発」【小中高】（課題①～③）



STEPS開発ワーキンググループ【小中高連携】

〇WG会議（全４回実施）

・「大阪版CAN-DOリスト」の作成及びSTEPS問題の開発（詳細な内容は左図及び後述のリーフレット参照）

・WGメンバーの所属校を訪問し、パフォーマンステストの実施状況を把握するなどして、STEPS問題開発の参考とした。

（成果物）

・「大阪版CAN-DOリスト」を完成させ、府域の小中学校・府立中・高等学校及び支援学校の各校へ、「STEPS in OSAKA」リーフレットを約20,000部配布

・STEPS in Osaka問題を250問作成し、Webシステムに搭載

〇英語教育Webフォーラム（全２回実施）

・WG会議での研究成果等を、学識経験者による解説等を加えてコンテンツとしてWeb配信を行った。

第１回：講義「CAN-DOリストを活用した授業と評価」
事務局説明「STEPS in OSAKA作成の進捗状況について」

第２回：講義及びパネルディスカッション
「小中高を通じた、4技能5領域の総合的な向上をめざして」
事務局説明「STEPS in OSAKA及び大阪版CAN-DOリストについて」

◇「リーダー教員を活用した授業の質的向上」【小・中】（課題①・②）

・これまで大阪府教育庁及び教育センターで育成してきた、小中学校の英語教育の実践リーダーを活用して、府教育庁で実施する研修や連絡会において好事例を共有するとともに、各市町村ですべての学校への伝達や普及を行った。
・市町村におけるリーダー教員を活用した授業の質的な向上に向けて、市町村での研修や連絡会での活用方針、加配教員との連携について指導助言を行った。
・共通の課題を抱える市町村や、先進的な取組みを行う市町村をマッチングさせて、相互補完的に情報共有できる体制を支援した。

＜主な連絡会・研修＞
○英語Co.連絡会（全3回）　内容：学識経験者による講義及びグループ協議
講義　「大阪版CAN－DOリストを活用した指導と評価の一体化について」、「パフォーマンステストから考える授業づくり」等
グループ協議「今年度実施したパフォーマンステストについて」
…使用している教科書別にグループ分けをした。テストづくりのイメージが共有しやすいという意見があった。
○外国語担当指導主事連絡会（全３回）　内容：視学官・学識経験者による講義及び市町村教育委員会指導主事による実践報告、協議
講義　「今だから求められる小中連携の在り方」、「パフォーマンステストから考える授業づくり」等

◇「学習指導要領の趣旨等の周知」【高】（課題①・②）

・教育庁より学習指導要領の趣旨や大阪府の英語教育に係る施策について説明するとともに、STEPS開発ワーキンググループによる学習指導要領に基づいた取組みや、観点別学習状況の評価に関する実践発表等を行った。

＜主な連絡会・研修＞
○大阪府教育課程協議会
目的　高等学校学習指導要領について、その趣旨の説明や実践事例等を共有することで、高等学校における英語教育の改善及び充実を図る。
対象　府内国立、公立、私立高等学校及び特別支援学校の校長、准校長、教頭、首席、指導教諭、教諭、助教諭、常勤講師
内容　①指導主事による高等学校学習指導要領に関する行政説明
②ワーキンググループメンバーによる「スピーキングの指導」や「観点別学習状況の評価」等に関する実践発表
③参加者による「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組み」や「生徒の資質・能力の育成につなげる学習評価」に関する研究協議

＜成果指標に基づく成果及び検証＞

■ 課題①に対する成果検証

	中3（政令市除く）		高3	
	R3	R4	R3	R4
目標値	50	50	50	50
実績値	47.4	49.1	48.2	50.8

（単位：%）

大阪府では、これまで小学校英語リーダー研修や高等学校英語教育推進中核教員研修、中学校英語コーディネーター（以下、英語Co.）連絡会、外国語担当指導主事連絡会、大阪府教育課程協議会等を通して、中核となる教員や市町村指導主事に対し、児童生徒の英語力向上のための研修を実施し、域内への普及をめざしてきた。令和４年度は、府が作成した「大阪版CAN-DOリスト」を、小・中・高を通じた４技能５領域の総合的な向上をめざす英語力の指標として、各研修、連絡会において示してきた。このことにより、生徒の英語力がCEFR-Jでどのレベル相当にあるのかを見とる基準の一つとして共有できた結果、生徒の英語力を適正に評価し、生徒の課題に対応した個に応じた支援ができたことも人数が増えた要因であったと考えられる。

■ 課題②に対する成果検証（単位：回）

中学校（政令市除く）	スピーチ		プレゼンテーション		ディスカッション		ディベート	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
全学年計	4.1	4.5	3.2	5.3	0.5	0.6	0.3	0.3

高等学校	スピーキング		ライティング	
	R3	R4	R3	R4
英コミⅠ	2.2	3.8	0.5	2.5
コミ英Ⅱ	1.6	2.2	0.5	2.1

中学校英語Co.連絡会や外国語担当指導主事連絡会、大阪府教育課程協議会等を通して、「指導と評価の一体化」の実現に向けたパフォーマンステストのあり方等をテーマに協議をしたり、「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について研究した内容を各校で広めたりしたことで、パフォーマンステストの実施回数を増やすことにつながったと考えられる。なお、「STEPS in OSAKA」では、中学校で実施回数が少ないディスカッションやディベートに関する問題も含まれるので、今後、パフォーマンステストの実施回数を増やすことができると推察している。

■ 課題③に対する成果検証（単位：%）

授業における活用率25%未満の学校	小学校	中学校	高等学校
児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動	26.0	33.7	42.7
児童生徒による、発話や発音などの録音・録画	55.0	59.0	67.3

課題の要因としては、ICT機器を活用して生徒が自分の発話などを確認する等の効果的な活用方法が浸透していないことや、１人１台端末の機能を有効に活用した授業づくりの工夫が共有できていないのではないかと考えられる。ICT機器をより効果的に活用するためのモデル（例：「話すこと」の問題の解答に録音機能を活用するなど）として、「STEPS in OSAKA」の活用事例を提案し、活用を一層促進するとともに、活動や学習評価の質の向上につなげる必要がある。

＜今後の方向性＞

■ 課題①③に対して ⇒「STEPS in OSAKAをベースとした効果的なICT活用促進」
■ 課題②に対して ⇒「パフォーマンステストの効果的な実施や主体的に学習に取り組む態度（特に自己調整にかかる評価）についての研究推進」

次年度は、これまでの「リーダー教員を活用した授業の質的向上」及び「教員の指導力向上」の取組みを引き続き推進しつつ、STEPS in OSAKA問題を活用したパフォーマンステストの効果的な実施や、主体的に学習に取り組む態度（特に自己調整にかかる評価）についての研究を進めるWG会議を設置するとともに、調査研究校での研究成果を府域の学校へ普及・発信したり、研修を行うことにより、府域全体で英語教育における効果的なICTの活用を促進したりする。

成果普及

○「STEPS in OSAKA」リーフレット（大阪版CAN-DOリスト）
http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/r04english/（大阪府ホームページ⇒）
○「STEPS in OSAKA」問題　※MEXCBTより問題検索、学習eポータルへのテスト登録が可能です